

テーマ

# 子どもの自転車 安全を再確認

## 教育 Education

自転車安全利用研究会

谷田貝 一男さんに聞く

子どもは自転車に乗れるようになると、一気に行動範囲が広がりますが、その分、事故に遭う危険性も高まります。進学や進級する前に、あらためて、子どもと自転車の安全利用に関して、確認



しませんか。今回は、子どもの自転車利用に詳しい、自転車安全利用研究会・谷田貝一男代表に聞き、親子で確認したいポイントについて紹介します。

### 小学3年生と 中学進学を節目に

自転車の事故の件数を見ると、小学3年生ごろと中学入学直後の二つの時期に特に増える傾向があります。これは成長とともに、友達との交流が広がり、自転車を使った移動距離が伸びるからだと考えられます。

そのため、特にこの時期の子どもには自転車の安全な乗り方を再度、教えていくことが大切です。

来月1日からは改正道路交  
通法が施行され、自転車を運  
転する場合の「ヘルメット着  
用」が、子どもだけでなく、  
全ての人に努力義務として課  
せられます。ヘルメット着用  
は、頭を守り、死亡事故を防  
ぐ大きな効果があるもの。こ  
の変化を親子で自転車の安全  
な乗り方を話し合う、良い機  
会にしていきましょう。

事故を防ぐために押さえて  
ほしいポイントを紹介しまし  
るので、参考にしてください。  
その上で、安全な乗り方  
については、子どもに「〇〇し  
て、回すことができる  
①サドルを一番下げた状態  
で、またいだ時に両足のかか  
とが地面にしっかりと着く  
②ハンドルをしっかりと握っ  
て、回すことができる

なさい」と伝えても反発され  
て、身に付きづらいのも現実  
です。  
そのため、まず①親がルー  
ルを守りお手本を見せること  
②一緒に走りながら道路の危  
険性を伝えること——を心が  
けてください。

「道路への飛び出し」です。  
それを防ぐためには、信号機  
のない交差点に来たら、「こ  
こで一時的停止しなかつたら、  
どうなる?」「今、飛び出し  
たら、どういう危険がある?」  
「この道を右側通行しながら  
曲がると、どんな危険があ  
る?」などと、問いかけを積  
み重ねてください。

子どもは車のスピードの感  
覚がつかみづらく、近くに車  
が来ているのに大丈夫だと思  
って、飛び出してしまふこと  
があります。危険性を予測す  
るのが苦手なので、一緒に  
行動しながら、どこに危険が  
潜んでいるのか、具体的に教  
えていきましょう。

子どもは、止まって、左右確認  
もしやすい。大きい自転車  
は、バランスを崩し、転倒す  
るリスクが高くなるので気を  
付けてください。

### こんな運転はダメ

#### ながら運転

(スマホを操作したり、イヤホン  
を付けて音楽を聞いたり)



#### 並進



#### 二人乗り



### ポイント① 体格に合った 自転車を選ぶ

自転車に乗る前に確認した  
ことは、自転車のサイズで  
す。子どもの成長はとも早  
いので、ともすると、大きめ  
の自転車を買ってしまいが  
ち。安全のためには、買う際  
に次の三つの条件を満たして  
いるか確認しましょう。

③ブレーキレバーを握っ  
て、しっかりとブレーキをかけ  
られる  
足が地に着いていると、片  
足をペダルに置いても安定し  
ません。爪先だけだと、乗る、  
止まる時に転倒しやすくなり  
ます。しっかりと足が着いてい  
ると、走り方が前についてい  
ると、走り方で間違いがあれば  
注意ができますし、交差点が  
近づいたら「止まりなさい」  
と後ろから言えます。子ども  
の状況が分かりやすい。その  
意味で、できれば子どもを前  
にして走る方が、安全ルール  
を教えるという点で私はい  
と考えています。



### 車道は左側通行

歩道は歩行者優先のため、いつでも止  
まれるスピードで車道寄りを走ること。  
また、歩いている人が多い時は、自転車を  
降りて、押して歩くようにしまし  
よう。車道を走る際は必ず左側通行です。

### 歩道は歩行者優先

